

# 第 5 章

---

## エコ・プロジェクト

市民、事業者、市の協働によって推進する事業について示します

# 1

## エコ・プロジェクト推進の考え方

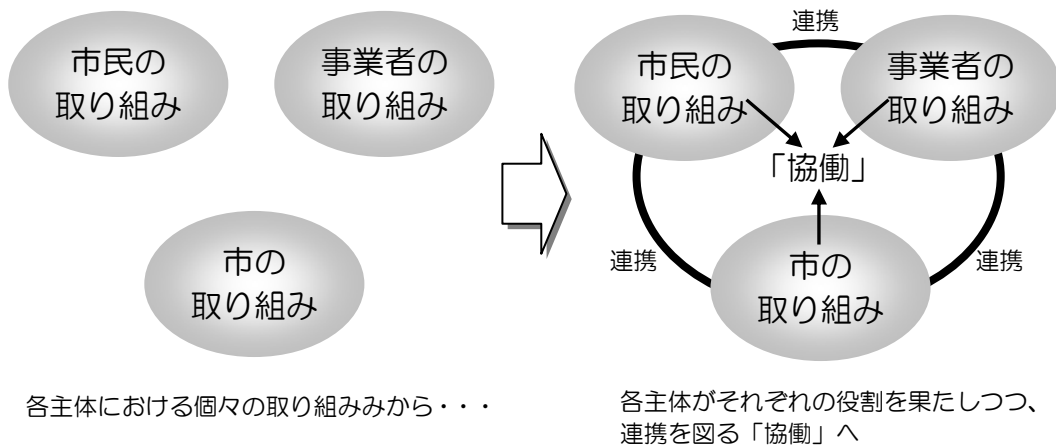
### 1. エコ・プロジェクトとは

エコ・プロジェクトとは、「協働」の考え方に基づき、市民、事業者が推進の主役となって行われるプロジェクトです。

市民、事業者のみなさんの参加があってはじめて動き出すものです。市もできる限りのサポートを行います。市民、事業者のみなさんの発意と行動がまず必要であるプロジェクトであると考えています。

#### ■個々の取り組みから「協働」へ

- ・現在の環境問題は、市民一人ひとりの生活や日常的な事業活動に起因する部分も含まれ、その解決のためには市民や事業者の参加が必要となっています。そこで計画では、市の行政施策の展開のほか、市民、事業者が自主的に取り組むべき取り組みを示しています。
- ・しかし、よりよい環境を目指すためには、それぞれが別々に取り組むだけでなく、ある一つの目的の達成に向け、さまざまな主体が連携しつつそれぞれの役割を果たしていくという、「協働」の考え方に基づき、連携を図り取り組みを進めていくことが大切なのです。



### 2. エコ・プロジェクト推進の考え方

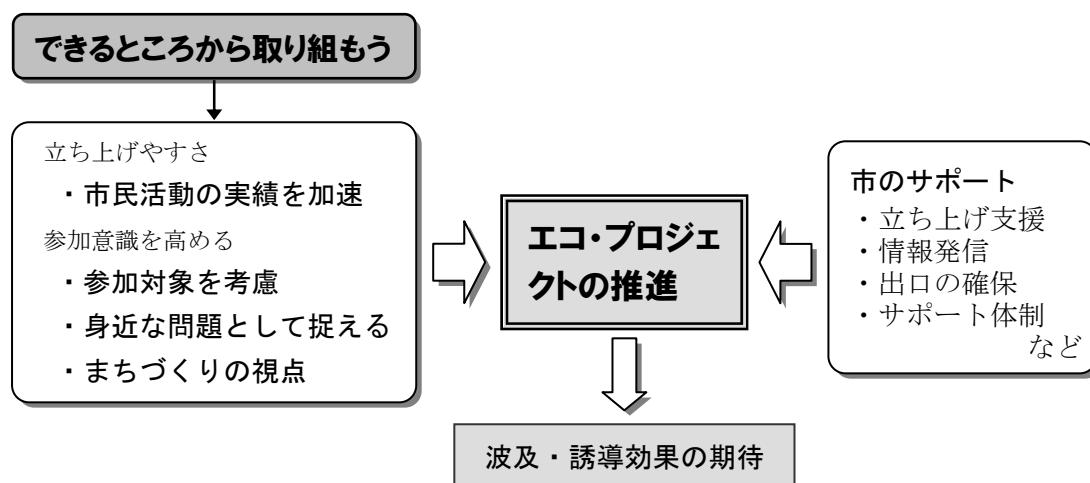
この5年間には、一部のエコ・プロジェクトを具体的に動かすことができませんでした。これからは動かす努力が必要と考えています。そこで、戸田の取り組み3原則のひとつ「できるところから取り組もう」にのっとり、できること、手を着けやすいところから始め、徐々に市民の参加意識を高めていくことを原則として進めていきます。

プロジェクトを立ち上げるためには、市民団体等によって既に行われている取り組みを足がかりに活動を広げることが有効と考えられます。その方法として、市民活動の実績を評価し情報発信することで、広報効果とともに市民団体のモチベーションを高めるなど、活動を加速させる工夫が求められます。

一般市民の参加意識を高める方法としては、若い世代や親子が参加したくなる楽しい活動、団塊世代が入りやすい参加機会づくりなど、対象者（子ども、親子、団塊の世代など）を考慮した参加しやすい取り組みと、適切な情報提供が必要となります。特に、体験型の取り組みや活動の成果が目に見える取り組みなど、環境を身近な問題として捉えやすい取り組みは、啓発面で有効と考えられます。また、環境に絞りすぎず、まちづくりの視点を持って広く展開することも必要となってきます。

さらに、軌道に乗ったプロジェクトをそのプロジェクトだけで完結させず、関連するプロジェクトへつなげていく波及・誘導効果によって、幅広く環境保全活動が推進されることが期待されます。

なお、エコ・プロジェクトは市民や事業者が主体となって取り組んでいくものですが、市民の努力だけでは限界があるため、立ち上げのバックアップ、情報発信、出口の確保、サポート体制の確立など、初動期を中心に市が支援をしていきます。



エコ・プロジェクト推進の考え方

●エコ・プロジェクトの推進にあたっての考慮事項

- ・中心となるメンバーでプロジェクトチームを立ち上げて進めます。
- ・各プロジェクトの中で、各主体（市民、市民団体、事業者、行政）の役割分担や具体的取り組みの優先順位を決めることが必要となります。
- ・市民のやる気を取り込むには、町会（地縁型組織）と市民団体（テーマ型組織）を縦糸・横糸にしたネットワークが機能することが有効と考えられます。
- ・子どもたちに環境への関心を抱かせる取り組みや、団塊世代に戦力になってもらう仕掛けなど、将来を見込んだ展開が求められます。
- ・関連性のある複数の活動が連携・協力することで、相乗効果も期待できます。

市民が主体となって行政と協働で進める取り組みとして、11のエコ・プロジェクトが提案されていましたが、この5年間では一部具体化しませんでした。

そこで、本計画では、アンケート結果や市民懇談会での意見を踏まえて、以下の6つのエコ・プロジェクトを優先的に推進することとします。

## 6つのエコ・プロジェクト

### エコ・プロジェクト① 河川環境再生プロジェクト

#### ■ 戸田の川と水辺を再生させよう

○戸田の川、戸田の水辺をよみがえらせるために継続的な取り組みを行います。

### エコ・プロジェクト② 緑の通「楽」路プロジェクト

#### ■ 緑に彩られた、通って楽しい道をつくろう

○沿道に緑や花を増やし、歩いて楽しい道づくりに取り組んでいきます。

### エコ・プロジェクト③ 生ごみリサイクルプロジェクト

#### ■ 生ごみを減らそう！

○既にも実績のある生ごみリサイクルを継続、補強していきます。

### エコ・プロジェクト④ 水循環回復プロジェクト

#### ■ 水害を減らし、夏でも涼しいまちをつくろう

○家庭レベルでの雨水貯留・雨水利用から、水循環の回復につなげていきます。

### エコ・プロジェクト⑤ 地球温暖化対策実践プロジェクト

#### ■ エコライフを実践しよう

○身近なことから地球温暖化対策に取り組むライフスタイルを広げていきます。

### エコ・プロジェクト⑥ 環境学習推進プロジェクト

#### ■ 環境について学習しよう

○環境・歴史・文化や生活も含めた環境学習を進めていきます。

## 戸田の川と水辺を再生させよう

### ■プロジェクトの目的と方向性

- ・戸田は荒川をはじめ多くの河川、水路が走る水のまちでした。しかし、都市化が進む中で、ほとんどの水路には蓋が掛けられ、子どもたちの遊び場であった川は汚れ、水辺からは自然性が失われ、今では水辺には人がほとんど近づかなくなっています。
- ・近年では、生き物のすめる川を目指して「清流ルネッサンスⅡ」事業が進められ、以前に比べて水質は改善されていますが、戸田のシンボルともいえるボートコースは今も汚れています。
- ・そこで、みんなで協力して川と水辺をきれいにし、身近な憩いの場を取り戻すことによって、行政が進める「清流ルネッサンスⅡ」を市民レベルで牽引するとともに、水と緑の回廊の形成につなげていきます。
- ・そのため、市民が川や水辺に興味を抱くようなイベントを行うなどを通して、協力者を増やしていくことが必要です。水に最も近づけるボートやカヌーを使って、川の楽しさと同時に汚さも体験することで、川で遊ぶためにきれいにしていこうという意識を高めることも有効と考えられます。
- ・戸田の川と水辺をよみがえらせる継続的な取り組みを行い、水のまち戸田から、水辺の大切さ、楽しさ、水辺再生の取り組みを全国に発信していきます。

### ■具体的な取り組み

#### ○地域の川、水辺をきれいにしよう

- ・川の清掃イベントの実施
- ・水辺の日常的な管理、清掃、パトロールの実施
- ・市民参加での川の水質調査、生き物調査の実施 など

#### ○市民が興味を抱く楽しい活動を通して仲間を増やそう

- ・川で遊ぶイベントの実施
- ・最も水に近づけるシーカヤック、ボート体験（水の汚さを実感してもらう）
- ・啓発用パンフレットの作成、出前講座の開催
- ・水辺を楽しむマップづくり
- ・真珠をつくるイケチョウガイの里親制度 など

#### ○水と緑の回廊づくりにつなげよう

- ・見沼代用水を残す運動の展開
- ・水辺のネットワークと整備計画の市民提案

## 緑に彩られた、通って楽しい道をつくろう

### ■プロジェクトの目的と方向性

- ・楽しく歩ける道づくりは、子どもにも高齢者にも親しみやすく必要な取り組みであるだけでなく、地域コミュニティの回復、防犯、商店街の活性化にも役立ちます。車利用抑制の観点からの地球温暖化対策にもつながります。
- ・また、緑を増やすことは、大気の浄化、地球温暖化防止、ヒートアイランド対策、うるおいのある景観づくりなど、住みよいまちづくりにつなげることができます。
- ・そこで、残された緑を守り、沿道に緑や花を増やし、四季の変化や自然の恵みを感じながら、誰もが安全に楽しく歩ける道づくりに取り組んでいきます。
- ・緑の多様な役割を知らせるとともに、小さな庭やベランダでもできる緑化方法を伝えたり、モデルとなるような緑化事例を顕彰するなど、市民の緑化に対するモチベーションを高める活動を展開していきます。
- ・さらに、意識調査において自転車・歩行者空間へのニーズが高かったこと、地形が平坦で自転車利用に向いている特性などを活かし、積極的に自転車の利用を促進するなど、環境の視点から、これからの“まち”や“みち”のあり方を考えていきます。

### ■具体的な取り組み

#### ○残された農地、樹林地を保全しよう

- ・所有者の負担を減らすお手伝い（情報交換のためにも）
- ・市民緑地の管理への協力
- ・トラスト運動も視野に入れた展開 など

#### ○埼京線の環境空間を緑に変えよう

- ・市とJRへの緑化の働きかけ
- ・市民の力で管理するプレーパークの提案 など

#### ○家庭の緑を増やそう

- ・緑の機能と緑化に関する啓発
- ・専門家によるガーデニング講習の実施
- ・緑化モデルとなるような事例の顕彰
- ・三軒協定を利用した街並み景観づくり など

#### ○安全で楽しい通「楽」路をつくろう

- ・商店街などへのお休み処の設置
- ・学校単位での通「楽」路マップづくり
- ・自転車のまちづくりの市民提案 など

## 生ごみを減らそう！

### ■プロジェクトの目的と方向性

- ・既に、市民団体や市の努力によって、家庭や学校で生ごみリサイクルの取り組みが始まっています。また、意識調査の結果を見ると、「生ごみリサイクル」には市民の参加意識も高いため、これまでの実績を継続、補強する方向で推進していきます。
- ・ごみの分別は市民の理解が高まり、空き缶・空き瓶、紙類などは資源化が進んでいますが、生ごみについてはほとんどがそのまま焼却されている現状にあります。
- ・水分を含んだ生ごみの焼却には負担がかかるため、資源化すれば処理費用も減り、その削減分を環境のために充てられる可能性もあり、家庭や事業者から出る生ごみも都市から出る資源として活用していくことが望まれます。
- ・生ごみリサイクル活動にさらに多くの市民の参加を促すには、多くの人が参加しやすいしくみをつくとともに、家庭や事業所からごみがどのように排出され、どのように処理されているかを、市民・事業者理解してもらうことも重要です。
- ・また、継続のためには、リサイクルによってできた有機肥料の使い道があることが重要であり、使ってくれる農家などとのつながりをつくることも必要になります。
- ・なお、このプロジェクトはごみの減量が目的であって、リサイクルが目的ではないことを忘れずに進めていくことが大切です。

### ■具体的な取り組み

#### ○多くの人が参加しやすいしくみを作ろう

- ・商店街やスーパーへの生ごみ処理機の設置
- ・マンションや事業所に生ごみ処理機設置の働きかけ
- ・生ごみ処理機の使い方の指導とチェック など

#### ○学校での取り組みに協力しよう

- ・食べ残しをしない啓発活動
- ・給食残飯のリサイクルとできた肥料の学校園での活用への協力
- ・生ごみ削減とリサイクルの家庭での実践 など

#### ○参加を促すための啓発活動しよう

- ・啓発用パンフレット等の作成、出前講座の開催
- ・ごみ処理施設見学ツアー など

#### ○リサイクル肥料の使い道を見つけよう

- ・農家とのつながり確保（市内農家、県内農家、姉妹都市の農家）
- ・互いに得するしくみづくりの提案
- ・運搬にトラック業界の協力を要請 など

## 水害を減らし、夏でも涼しいまちをつくろう

### ■プロジェクトの目的と方向性

- ・都市化の進展に伴って、保水機能を持つ農地や樹林地が減り、地面がコンクリートやアスファルトで固められた結果、降った雨が地中にしみこまず河川や下水道へ急速に流れ込みます。このため、多くの道路で冠水被害がでるなど都市型水害が目立ってきています。
- ・また、土面が失われたことによって、土壌から水が蒸発する時に大気から気化熱を奪うために起こる冷却機能が低下したうえ、コンクリートやアスファルトの舗装面からの輻射熱も加わり、戸田市でもヒートアイランド現象が引き起こされています。
- ・都市型水害やヒートアイランド現象を防ぐためには、残された農地や樹林地の持つ保水機能の維持、透水性舗装などによる雨水の地下浸透の促進などの他に、水循環に対する市民の意識を高め、家庭レベルでの雨水浸透、雨水貯留を進めることも大切です。
- ・各家庭や事業所で雨水をいったん貯めてゆっくり流すこと、貯めた雨水や風呂の残り湯を洗濯や散水に使うなど家庭で使う水も一気に下水に流さないといったことの意味を正しく知らせ、都市型洪水やヒートアイランド対策に加え、資源を無駄にしない意識の醸成にもつなげていきます。
- ・平成19年度より雨水貯留容器への補助事業が始まることも考慮し、まずは家庭レベルでの雨水貯留・雨水利用の啓発から始め、徐々に取り組みの範囲を広げていきます。

### ■具体的な取り組み

#### ○雨水貯留、雨水利用を市民や企業に働きかけよう

- ・都市型洪水やヒートアイランドのしくみと対策の必要性の啓発
- ・家庭や事業所でできる取り組みの普及啓発
- ・啓発用パンフレットの作成、出前講座の開催
- ・雨水貯留容器の家庭への設置
- ・保水性建材などの普及に関する研究 など

#### ○保水力のある農地、樹林地を保全しよう

- ・田んぼ公園の市民提案
- ・所有者への協力要請
- ・市民緑地の管理への協力 など

#### ○暑い夏を涼しく過ごそう

- ・打ち水大作戦
- ・緑化や打ち水の効果についての普及啓発 など



## エコライフを実践しよう

### ■プロジェクトの目的と方向性

- ・地球温暖化は、私たちの日常の業務活動や日常生活から生ずる環境負荷があまりにも大きくなっていることが、ひとつの原因となっています。これは私たちが日常生活を見直すことによって削減できるものであり、地球温暖化防止には一人ひとりの取り組みが重要になっています。
- ・しかしながら、意識調査では地球温暖化に対する問題意識は高いものの、取り組みの成果が見えづらいこともあり、地球温暖化対策を実践する人がなかなか増えないのが現状です。
- ・そこで、エコライフ DAY の実績も踏まえ、身近なことから地球温暖化対策に取り組む市民をひとりでも増やすようにしていきます。
- ・多くの人の参加を促すには正しい情報提供が必要です。その際、地球温暖化の影響が戸田市ではどうなるかなど、身近な問題として伝え、対策として何をすればよいかを正しく知らせることが重要となります。
- ・また、市民の取り組みのインセンティブとして地域通貨「戸田オール」を活用する、費用をかけず楽しみながらできる自然エネルギーの利用方を提案するなど、みんなに関心を持たせるための工夫も楽しみながら進めていきます。

### ■具体的な取り組み

#### ○エコライフ DAY の参加者を増やそう

- ・子ども向けテーマだけでなく、大人向け、高齢者向けなどテーマの工夫
- ・地域通貨の活用など参加の動機付け方法の工夫
- ・年1回から回数増を検討 など

#### ○市民レベルでの温暖化防止活動の輪を広げよう

- ・地球温暖化防止の必要性和日常生活でできる取り組みの普及啓発
- ・啓発用パンフレット作成、出前講座の開催
- ・省エネルギーコンテスト等のイベントの企画・開催
- ・環境に配慮した製品についての普及啓発 など

#### ○家庭の屋外照明に太陽光発電を利用しよう

- ・家庭用太陽光発電型屋外照明キットの開発
- ・作り方教室の開催
- ・自然エネルギー利用や家庭での省エネについての普及啓発 など

## 環境について学習しよう

### ■プロジェクトの目的と方向性

- ・よりよい環境を作っていくためには、環境問題に多くの市民が関心を持ち、一人ひとりができることを進めていくことが重要なことです。
- ・そのためには、環境に関心を持つ多様な人材を活用しながら、自然環境はもちろん、歴史・文化や生活も含めた幅広い環境をテーマに、学校教育、生涯学習を通じて環境学習を多面的に展開していくことが必要となります。
- ・特に、子どもたちから環境づくりの実践を進めることは、長期的に見て有効と考えられます。そのため、さまざまな場面で、子どもたちが環境に興味を抱き、環境に負荷を与えないライフスタイルを実践できるよう、環境教育の充実が求められます。
- ・そこで、環境に関心のある市民や市民団体が中心となって、環境学習プログラムを準備したり、先生たちへのレクチャーを行うなど、地域から学校での環境教育に協力できる体制を整えていきます。あわせて、学校や教育委員会には、地域に開かれた学校として、地域の人々が学校応援団として関われるしくみを整えることが望まれます。
- ・また、環境やまちづくりについて指導できる人材を探したり、養成していくことも進めていきます。

### ■具体的な取り組み

#### ○学校での環境教育に協力しよう

- ・環境教育の講師としての協力や場所の提供
- ・先生のための講習会等の企画・開催
- ・学習プログラムの開発、メニューの周知
- ・学校ビオトープづくり等への地域、市民団体の協力 など

#### ○楽しく環境を学べる場と機会を提供しよう

- ・楽しく参加できる体験型イベントの企画・開催
- ・講習会やシンポジウムの企画・開催
- ・学習プログラムの開発、メニューの周知 など

#### ○人材の発掘と養成を進めよう

- ・「とだ環境ネットワーク」を核とした情報交換や学びあいの実践
- ・さまざまな活動を支援する環境の専門家との連携
- ・講習会修了者のグループ化や環境人材バンクへの登録 など